私の行きつけ 新・赤ちょうちん 31

香満園

JR青梅線小作駅徒歩1分

野菜カービング（写真右下）上手の店長と接待上手の奥さんで店を切り盛り

【西多摩・配管工・丹野俊彦記】シニア西多摩の行きつけの店は、小作駅西口すぐの香満園。ロータリーの真ん前の派手な赤い壁のマンション の1階です。6年ほど前に開店したお店で、以前は何もなかった小作駅に初めてできた本格中華料理のお店です。

店の名前の由来は香（食べ物の香り）満（満足）園（楽園）だそうです。以前ホテルのコックもしていた若い店長と接待上手で機転の早い奥さんでやっていて、40人ほど入れる店でお座敷の個室もあります。西多摩支部にも近いので、支部の役員や、分会の打ち上げ、忘年会、新年会とよく利用しています。3人以上は1人3200円で2時間全50品のFOODメニューが全部食べ放題&豪華呑み放題セットもあります。次から次と料理が出され、いつも満腹、また来るよと若い人に人気の笑顔の出る店です。

味は日本人に合わせたもので、油はあまり使っていません。野菜料理にこだわりがあり、デザート食べ放題もあります。団体で行くと、お土産でよく人参や大根でカービングした彫刻を作ってくれます。中国では祝い事で必ず食卓に飾るものだそうです。彫刻は大学で学んだとのことでした。

驚異のW放題セット
団体だと彫刻サービスも

《メニュー》※税込
生ビール　380円
酸辣麺　700円
マーボ豆腐定食　680円
八宝菜定食　780円
日替わりランチ　580円
小皿料理　全額均一490円
営業時間　11時～15時、17時～23時（今はコロナのため夜21時まで）／火曜定休
羽村市小作台3―23―1栄ビル1F・駐車場あり
☎042（554）3898

忘れえぬこと

今の人生観培った
定時制高校での4年間

建具　三國 俊一

「職人に学歴はいらん」昔気質の建具職人の父の言葉と「せめて夜間だけでも」との母の意見の折衷案で、昭和47年の春から4年間の定時制高校への通学が始まりました。

当時の定時制高校は私のような新中卒の人、他校から諸事情により編入の人、社会人となってから学び直す人、様々な背景を持ち一応日中は仕事を終えて通学する、普通の全日制高校とは少し違う空気感があった気がします。

特に印象に残るのが4年生時の修学旅行。場所は北九州、既に成人者も多く見学用のバス内からいきなりの「喫煙」あり、持ち込みでの「飲酒」あり、それには慣れているのか引率の先生も「程々に」とのアドバイスがやっと。バスガイドさんなど「本当に高校の修学旅行ですか?」と正直いぶかしがられました。そう言うと何か不良、悪童を思い起こすかもしれませんが、あの時不思議とリーダーを決めた訳でもないのに年長者を中心に決して逸脱することなく日程を消化、良き思い出となりました。私自身この経験を通じて、社会人としてのルールとかマナーを学んだ気がします。まあ確かに旅行最終日、朝のトイレで担任の先生のストレス発散怒号を聞いた時は「世間というのは気苦労があるよね」そんな感想を持った記憶があります。

思い返すと、あの4年間が今の自分の人生観を培ったように感じます。そして組合での役員経験時において、多様性を持った多くの組合員と接する土台になった、そんな貴重な4年間だった気がしてなりません。

（葛飾）

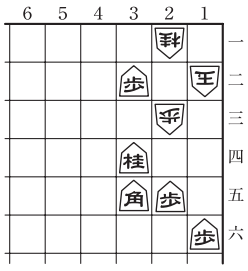
サイボーグ

空白の9年間

助走なしで垂直に飛び膝蹴りを頭部に叩き込む〝真空飛び膝蹴り〟などで知られる沢村忠。天才的な強さを誇るキックボクサーとして国民的人気を集め、その半生は梶原一騎原作で漫画『キックの鬼』となりテレビアニメ化もされた。

消息不明だった引退後の9年間。実は、薄給の自動車修理工場の見習い工から3年ほどで独立していた。「車は嘘をつかないから」というのが新しい人生を一から始めた理由だった。

詰将棋



チョット一服(1053)

かつてコンビニで大量廃棄というフードロスが問題になった恵方巻き。今年はコロナ禍の巣ごもり需要という状況もあるが、昨年から事前予約を強化してきたこともあり、売り切れ続出という状況になったと報道された。

セブンイレブン本部が見切り販売をする加盟店へ妨害したことに対し、2009年に公正取引委員会から排除命令が出されてから、フードロスは減ってきているようだ。しかしコンビニ会計という高額なロイヤルティを負担させられている仕組みがある限り、フードロスはなくならない。コンビニ会計は見直しが求められているだろう。

本ほん

【本部・末浪明子記】続くコロナウイルスの影響下で、改めて日本の社会保障が問い直されています。

本書は、日本の社会保障の全体像をその成り立ちと私たちの暮らしの視点から分野別に解説し、制度改善の展望と社会保障運動の方向性を提起しています。働く現場から考える社会保障制度、社会保障運動において労働組合が果たしてきた役割と意義、暮らしの土台である「住まい」と社会保障とのかかわりについても学ぶことができ、東京土建で活動する私たちにとって必読の書です。

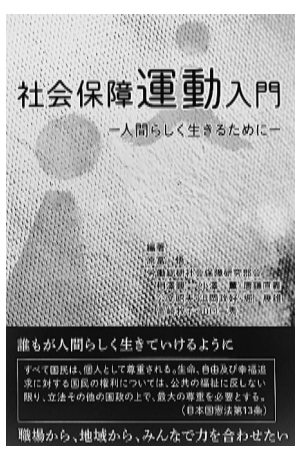
文中に、社会保障とは、だれもが人間らしく生きていけるようにするための、社会的な共同の営み、社会保障運動とは、みんなが安心して生きていけるような条件、社会環境をつくっていくための活動、と記されています。

貧困、老齢や若年、障がい、外国の人、LGBTや社会的な男女の差など、様々な面において生きづらさを感じている人は少数と思われがちで、たいていの場合、声をあげにくい環境にあります。しかし、ウイルスの猛威に振り回されたここ数年で、どんな人も社会保障の当事者になり得ることが明白になりました。

だれもが人間らしく生きていける社会保障制度は、それぞれの困りごとに気づいて共感すること、国や行政に対して声をあげるのは、少数だけで行なうことでなく、みんなで実践してこそ実現できます。

本書は、そういった活動に自らもかかわっていくこと、それもまた、人間らしい生き方ではないか、と私たちに問いかけています。

（学習の友社・1320円税込）



社会保障運動入門 ―人間らしく生きるために
原冨悟／労働総研社会保障研究部会【編著】

みんなで実践してこそ実現できる